

ふえき

時代を超えて変わらないもの

特集

助成団体連絡会 座談会
応援したくなる活動って
どんな活動？



85

応援したくなる 活動つてどんな活動？

民間活動と助成団体

市民活動団体はおしなべて資金難の状況にあり、助成団体の果たす役割はますます大きくなっています。2019年度から、岡山県内の市民活動に対して助成事業を行っている5団体で「みんなの活動応援」助成団体連絡会を立ち上げました。資金調達説明会を行ったり、活動に沿った助成金を紹介し合ったりしています。各団体のこれまでの助成の実績や効果、そしてこれら期待する活動などについて、思いを語り合いました。

助成財団はいろいろある！

和田「今日は、私たち助成財団の存在を知つてもらう機会にもできたらと思います。まずは自己紹介を兼ねて、各財団の助成の特徴を教えてください。

石田「みんなでつくる財団おかやま（みんつく）は、2012年に設立。『みんなの何とかしたいをカタチにする』市民コミュニティ財団。

**お金の問題で
諦めないでほしい**

理事 石田篤史

公益財団法人

みんなでつくる財団おかやま（通称「みんつく」）

530名以上の市民からの寄付金をもとに2012年に設立。
「みんなの何とかしたいをカタチにする」市民コミュニティ財団。

高田「私たち岡山県文化連盟では、「おかやま県民文化祭」という、県と一緒にやっている事業の中で公募助成を行っています。

高田「岡山県文化連盟では、「災害等準備金」といって、平時から全国の共募で積み立てておいたお金を、災害時に被災県の共募を通じて現地のボランティアセンターなどに寄付する制度もあります。

濱田「ここでは一番の新参者です。橋本財団は2017年に発足し、そこから助成事業を始め、これまで7回助成金を出してきました。大きくは「研究助成」と「活動助成」ですが、後者は非常に幅広く、公的資金が出来るものは除きますが、県内の方々の困難がある人に対して支援活動をするもの全てを対象



オンライン動画 公益財団法人 橋本財団
事務局長 濱田さゆり

社会福祉法人 岡山県共同募金会
主任 植野裕美

「みんなの活動応援」
助成団体連絡会 座談会



「事業指定助成プログラム」とは、地域版クラウドファンディングのようなもので、活動団体側が「こういうことをやりたい」とプロジェクトのアイデアを開いて賛同者を募ることで資金を集めを支援する仕組みです。「冠基金」とは、寄付者が「今こんなことが必要じゃないか」というテーマがあれば、少額から基金をつくって助成できる仕組みです。たとえば2018年に豪雨災害支援として立ち上げた「ももたろう基金」などがあります。

「文化パワーアップ・アクション助成事業」といいますが、通常の展覧会や発表会等ではなく、新しさや付加価値があるとか、これまで一緒にやつてこなかつた人と共に活動するといった、何かパワーアップする部分があるかどうかを評価してお金をつけていくこうという事業です。「次世代育成」と、「地域文化創造」の2分野に対し、対象経費の3分の2以内、上限30万円の助成を行います。

公益財団法人

みんなでつくる財団おかやま（通称「みんつく」）

530名以上の市民からの寄付金をもとに2012年に設立。
「みんなの何とかしたいをカタチにする」市民コミュニティ財団。

高田「私たち岡山県文化連盟では、「災害等準備金」といって、平時から全国の共募で積み立てておいたお金を、災害時に被災県の共募を通じて現地のボランティアセンターなどに寄付する制度もあります。

高田「岡山県文化連盟では、「おかやま県民文化祭」という、県と一緒にやっている事業の中で公募助成を行っています。

高田「私たち岡山県文化連盟では、「研究助成」と「活動助成」ですが、後者は非常に幅広く、公的資金が出来るものは除きますが、県内の方々の困難がある人に対して支援活動をするもの全てを対象

それぞれの助成の特徴は？

石田：僕たちが大事にしているのは、多様性とスピード感。「今こういうことが必要なんじゃないの？」ということに合わせて財源を集め。使途も、目的に合致していれば自由度が高いことが特徴です。

和田：団体の基盤強化にも助成を使えるということですか？

石田：基金の種類によってはそうですね。

高田：私たちの場合は原資が税金なので、自由度の高い民間の助成金が羨ましくもあります。行政と民間の中間支援組織として、ノウハウや専門性を上手にマッチングさせて、いかに皆さんにとって意義のある助成金にできるか。そこが腕の見せ所であり、私たちの存在価値だと思います。

濱田：助成対象を幅広く設定している理由は、そこから見えてくる社会課題があると思うからです。たとえばこれまで不登校支援団体やフリースクールに助成金を出してきましたが、助成先から、通信制高校のニーズは増えているけれど、経済的理由で進学を諦めざるをえない子も少なくないという話を聞き、昨年から通信制高校に通学、進学するための給付型奨学金「ユースサポート」も始めました。また、数年前から活動助成の特別

梓として、「岡山に住む外国人への支援活動」を設けました。交流促進のきっかけになれたらと思っています。

和田：私たちには、福武哲彦さんの「岡山県の教育文化の進展に役立ちたい」という願いから設立された財団です。近年は、財団としても人づくり・地域づくりに力を入れていて、教育と文化の視点から地域社会の課題解決に取り組む活動をメインで応援させていただいています。

たくさんの良い活動を

もつと知つてほしい

1947年に「共同募金岡山県委員会」として発足。1952年に現在の形に改組。「赤い羽根共同募金」運動を行い、地域福祉の推進に貢献している。



主幹 植野 裕美



助成先に期待していること

和田：活動成果の発表や公開、他団体との交流の機会の提供など助成金以外の支援に力を入れていることも特徴のひとつかなと思います。

石田：基金の目的、寄付者の思いを実現してくれるかというところは当然ありますが、やはり自分の思いを、社会的な視点をもつてきちんと形にしてほしいですね。

植野：「私の出した500円がこういうことに使われるんだつたりいいな」と思つてもらえるような活動をしていただけるのが一番ですね。

行政と民間の中間組織 だからこそできる 支援をしたい



主任 高田佳奈

2010年秋に開催された「第25回国民文化祭・おかやま2010」を契機に設立。県内の自治体や文化関係団体をつなぐネットワークを構築し、県内の芸術文化活動をさまざまな形で支援している。

高田：行政はそういうところは捨てるといふんです。私益が共益になり公益になっていくステップの、せめて共益が公益になるくらいのところじゃないと行政は捨てにくいけど、福武さんは、芽の部分を拾ってくれる。それがすごくありがたいと思います。

濱田：橋本財團の助成の特徴は、やはり自由度が高いこと。人件費もOKです。金額も大きく、一件あたり20万円から300万円まで、自己負担なしで事業ができるというのは良いところかなと思うのですが、一方で怖さもあって、活動継続への心配はありますね。

和田：私たち福武教育文化振興財団の特徴って何だろう。



濱田「私は、稚拙な言い方です

けど、苦しまないでほしいです。

人のために何かしようという方たちなので、資金集めで苦しんでほしくないですし、あとは後継者がいるのかな、大丈夫かなというところもあります。

和田「活動は楽しんでやってほしいです。楽しまないと続かないと考えているので。あとは、助成対象者どうし、仲良くなつてもらいたいなとか、財団とも積極的に関わつてもらいたいなというところですね。

石田「たとえば「ももたろう基金」で災害支援をしましたが、実はあの仕組みが今は全国で災害時に使われています。あの時にやつた、仮設の病院で保険診療を始める仕組みは、熊本などでも実現していますが、僕らが仕組みをつくったことが世の中のスタンダードに近づいていくというのはうれしいですね。

成果を実感した ケースは?

対象を幅広く設定
そこから見えてくる
社会課題がある



2017年設立。岡山県において、身体的・社会的に援助が必要な方への支援などに関する事業を行い、広く社会福祉の増進に寄与することを目的としている。

公益財団法人 橋本財団

岡山県内の 財団どうし 連携を深めて みなさんの活動を 応援したい



みなさんの活動を 応援したい

財団どうし 連携を深めて

みなさんの活動を 応援したい

和田「菅原直樹さんの「老いと演劇」OBokeShiのように、最初の芽の部分を助成金で応援したところが、どんどん大きくなつていった話を聞くと、やはり成果を実感します。

高田「福武さんと一緒にやらせてもらっている学校出前講座という枠がありまして、昨年、150周年を迎える玉野市の小学校から、心に残る周年記念事業をやりたいという相談がありました。学校には膨大な写真が残されていたので、彫刻家の片

「こういうところがあるよ」ともつと伝えていきたいですね。

濱田「今、子どもの数は減つているのに不登校は増えています。「普通が高度化している」と言われますか、「普通」であることが難しくなつてきているのかもしれません。何か行動することに對してネガティブな目が向けられがちな社会もあります。だから、寛容な社会になつてほしいと願っています。

和田「いろいろな選択肢があつたらいなと思います。みんなが気軽に、失敗を恐れずにチャレンジできたらいいなと。失敗してもいいんです。やつてみて課題が見えたり、失敗した理由が分かれば、それも貴重な知見になります。ぜひ助成金を活用して選択肢を増やしていくほしいです。

今日はありがとうございます。県内の財団どうし、これからも連携を広めて深めていきたいと思います。

どんな地域になつてほし い?

和田「片山さんは当財団の助成金も使って活動されていましたし、受賞者でもあります。いろんな関わりが素敵な活動につながった。助成財団冥利に尽きますね。

高田「文化芸術を通して、地域を知るきっかけになればと思います。文化芸術は、決してお金と暇を持て余した人だけの特権ではありません。誰もが自由にクリエイティビティを發揮できる、ごく自然にそういうことが行われる社会というのが一番いいですね。

失敗を恐れず
チャレンジ
してほしい



公益財団法人 福武教育文化振興財団

1986年、福武哲彦（現株式会社ベネッセホールディングス創業者）の意思を継いで設立された財団法人福武教育振興財団と、1996年に設立された財団法人福武文化振興財団とが統合され、2007年にスタート。2012年、公益財団法人に移行。

石田「チャレンジが容易になつたらしいなと思います。何か気になることがあつたら、お金の問題で諦めることなく、誰もが「じゃあ自分がやろうか」と思える社会であつてほしい。そして、何かやる人を応援しやすい社会。それが多样性を生むと思っています。

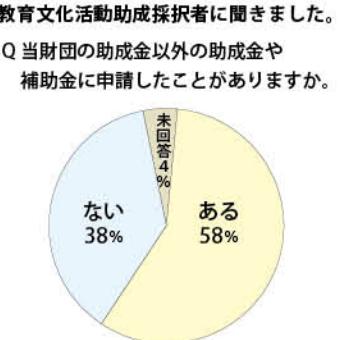
助成金一覧

助成団体	分野	助成名	助成目的	助成対象活動	応募資格	募集時期	助成金額	助成期間	備考
(公財)みんなでつくる財団おかやま 	不特定	割り勘で夢を叶えよう！事業指定助成プログラム【はじめの一歩型】	寄付を原資とした助成事業で、NPO・市民団体等が取り組む事業内容を社会に発信し、事業への賛同者を募ることで、寄付により資金集めを支援する仕組み(地域版クラウドファンディング)	社会課題の解決のための事業(地域課題の解決や地域社会の健全な発展に貢献する)を対象とする 団体の寄付募集のはじめの一歩を応援 次年度以降も活動継続を予定しており、団体運営のための仲間集めや寄付募集を行うことで、組織基盤強化を目指す団体が対象	岡山県内に事務所を置くNPO法人・社団法人・財団法人・社会福祉法人・任意団体・市民活動団体などであること(法人格の有無は問わない) 原則としてCANPANで☆3つ以上	令和6年度 第19期：2024年9月頃募集 ※寄付募集は12月～2月 毎年上半期、下半期に一度ずつ募集	・助成希望額に上限、下限の定めなし ・補助率のような制限なし 実施事業にかかる費用100%申請可能 ※金額の目安として30～50万円が本事業とマッチしやすい	助成後1年以内で完了する事業 ※半年以内で事業完了が望ましい	
	不特定	未来の当たり前をつくろう！事業指定助成プログラム【事業発展型】	寄付を原資とした助成事業で、NPO・市民団体等が取り組む事業内容を社会に発信し、事業への賛同者を募ることで、寄付により資金集めを支援する仕組み(地域版クラウドファンディング)	社会課題の解決のための事業(地域課題の解決や地域社会の健全な発展に貢献する)を対象とする すでにある程度の活動実績と継続性が認められ、寄付集めにより現在の活動をさらに発展させたい団体が対象	岡山県内に事務所を置くNPO法人・社団法人・財団法人・社会福祉法人・任意団体・市民活動団体などであること(法人格の有無は問わない) 原則としてCANPANで☆3つ以上	常時募集 ※申請年度に寄付募集の場合は11月30日まで	・助成希望額に上限、下限の定めなし ・補助率のような制限なし。実施事業にかかる費用100%申請可能	助成後1年以内で完了する事業 ※半年以内で事業完了が望ましい	
	まちづくり・防災・被災地支援・その他	「みんなの貯金箱を保とう！」みんつく冠基金事業	自分の気になること、関心のあるテーマに対して、個人でも少額から基金を設立できる仕組み 金設置者の意向を反映し、助成制度設計を行う ※基金ごとに目的が違う	助成分野規定あり(11分野) 基金テーマの選択・エリア指定・詳細テーマ設定可能 ※令和6年度は、下記のテーマを予定 「まちづくり(総社市)、防災・被災地支援」	・岡山県内の団体が行う事業 ・活動テーマ(内容)は県外及び海外対象でも可	4半期毎	基金により異なる ※令和6年度は、2基金の助成で上限額は5万円～10万円	採択翌月から6ヵ月以内に完了する事業	
	福祉・教育・その他	「みんなの貯金箱を保とう！」みんつく冠基金事業/社会変革基金事業	自分の気になること、関心のあるテーマに対して、個人でも少額から基金を設立できる仕組み 基金設置者の意向を反映し、助成制度設計を行う ※基金ごとに目的が違う	助成分野規定あり(11分野) 基金テーマの選択・エリア指定・詳細テーマ設定可能 ※令和6年度は、下記のテーマを予定 「子ども(キャリア・学習環境整備)、障がい者、まちづくり(倉敷市)」	・岡山県内の団体が行う事業 ・活動テーマ(内容)は県外及び海外対象でも可	毎年12月中旬から2月上旬ごろまで ※基金により異なる場合がある	基金により異なる ※令和5年度は、6基金の助成で上限額は5万円～100万円	次年度末までに完了する事業	
	ろうきんNPO寄付システム	NPO法人の活動増進 ろうきんの口座からNPO活動分野ごとに寄付を行う仕組みがあり、その寄付分配	NPO活動分野ごとの寄付分配、寄付が分配可能額(5万円以上)に達した分野ごとに毎年実施。 例年4～8分野程度	岡山県内のNPO法人	毎年12月中旬から2月上旬ごろまで	5万円	団体に対しての寄付分配のため、特に定めなし ただし、次年度末までに報告書提出		
(社)岡山県共同募金会 	福祉	赤い羽根共同募金「地域ささえあいプロジェクト」	NPO法人等と協働して、地域の様々な社会課題の解決を目指す	①子育て支援、児童健全育成 ②障がい者の生活支援、社会参加等 ③高齢者の生活支援、社会参加等 ④生活困窮者への支援 ⑤孤立防止、孤立解消 ⑥自殺予防 等	岡山県内のNPO法人等	4月中旬～6月末	募金額+マッチングギフト(加算額上限20万円)	次年度 4月1日～3月31日(1年間)	参加団体は、自分たちの活動に必要な資金を主体的に調達するために募金活動を行う
		赤い羽根ボランティア団体・NPO活動支援事業	公的な福祉サービスでは対応し難い課題について、自主性をもって柔軟かつ多様な活動を展開している団体の事業を支援する	①子育て支援、児童健全育成 ②障がい者の生活支援、社会参加等 ③高齢者の生活支援等 ④虐待、引きこもり等社会問題 ⑤人材育成 等	県内に所在するボランティア団体・NPO法人等	10月1日～12月中旬	上限50万円	次年度 4月1日～3月31日(1年間)	
(公社)岡山県文化連盟 	文化・芸術	おかやま県民文化祭共催事業文化パワーアップアクション助成事業	文化・芸術を生かした地域的・社会的課題への対応を通じて、“新たな価値”的創造を目指す事業・活動で、次の①②いずれかに該当する事業について助成する	①「次世代育成支援事業」(将来の文化を担う次世代を育成・強化する事業) ②「地域文化創造支援事業」(地域の文化・資源を生かして地域を元気にする文化事業)	岡山県内で文化・芸術活動を行う団体(県内に事務所を有し、主に県内で活動する文化団体、文化施設または文化芸術活動を行う団体)	1月～2月頃	助成対象経費の3分の2以内(上限30万円)	次年度 4月1日～3月31日(1年間)	採否にかかわらず、3月下旬に書面にて通知
(公財)橋本財団 	福祉	福祉活動助成	何らかの困難があっても地域で望む生活が送れるように地域共生社会の実現を目指すための事業・活動を支援する	①特別枠「岡山に住む外国人への支援活動」岡山に住む外国人へ、日本語支援(教室・通訳)や地域との交流など、様々な生活支援活動。 ②一般枠「(公的支援の枠外での)社会福祉活動」何らかの困難を抱える方(障害者・障害児とその家族・療養者・療養児とその家族・生活困窮者・刑余者・社会的義理下の子ども・引きこもり・不登校・被災者・DV・虐待被害者・孤立世帯・その他)に対する、緊急保護・一時保護に関する事業・活動・自立支援に関する事業・活動・地域共生に関する事業・活動・豊かな暮らしを支援するための事業・活動等	岡山県内で助成対象となる事業・活動を行っている団体・個人	9月1日～10月31日 ※電子申請	1件当たり、20万円から300万円まで	次年度 4月1日～3月31日(1年間)	応募受付はWEB申請のみ
(公財)福武教育文化振興財団 	教育・文化	教育文化活動助成	岡山県の教育、文化発展のために尽力している個人、団体の活動が、地域の活性化につながることを期待し、公募による教育活動助成を行う	教育や文化芸術、地域資源を活用する以下の活動が対象 ①地域社会(コミュニティ)の活性化に取り組む活動 ②次世代育成に取り組む活動 ③教育の質の向上や普及に取り組む活動 ④文化芸術の質の向上や普及に取り組む活動 ※教育文化活動による被災地支援も対象となる	岡山県内で助成対象となる教育文化活動を行っている団体・個人	12月1日～翌年1月31日 ※電子申請	1件当たりの上限は30万円	次年度 4月1日～3月31日(1年間)	

その他の岡山県内外の助成団体

助成団体	助成名	募集期間	助成額
(公財)はるやま財団	障害者支援助成金	年4回 (12月末日・3月末日・6月末日・9月末日)	上限50万
(公財)マルセンスポーツ・文化振興財団	スポーツ・文化振興財団活動助成	11月15日～翌年1月20日	限度額10万円
(公財)福武財団	アートによる地域振興助成	2024年10月1日(火)～31日(木)	1件当たり、50万円～上限300万円まで
	瀬戸内海地域振興助成	2024年9月1日(日)～30日(月)	1件当たり、30万円～上限100万円まで
(公財)エネルギー文化・スポーツ財団	※美術・音楽の創造・普及・育成につながる展示・公演活動・伝統文化の保存・伝承・復活・復元および発表活動・アマチュアスポーツの振興活動	前期募集(活動期間4/1～3/31) 10月1日～11月20日	1件当たり、10万円～上限50万円まで
		後期募集(活動期間10/1～3/31) 5月1日～6月20日	

*詳細は各団体のWebサイトで確認してください。



教育文化活動助成採択者に聞きました。

Q 当財団の助成金以外の助成金や補助金に申請したことがありますか。

実際に申請したことのある当財団以外の助成金・補助金

- 各市町村の助成金や補助金
- 公益財団法人 日本教育公務員弘済会 岡山支部
- 各県民局(備前・備中・美作)
- 公益財団法人 太陽生命厚生財団
- 公益財団法人 マルセンスポーツ・文化振興財団
- 公益財団法人 日本財団
- 公益社団法人 岡山県文化連盟
- 公益財団法人 エネルギア文化・スポーツ財団
- 一般財団法人 YS市庭コミュニティー財団
- 公益財団法人 橋本財団
- 公益財団法人 笹川財団
- サンエイグループ サン基金
- 子どもゆめ基金
- 公益財団法人 おかやま環境ネットワーク
- 公益財団法人 津市文化振興財団
- 赤い羽根共同募金助成金
- 大和証券ボランティア活動助成
- グリーンコーポ福祉活動組合員基金助成
- 公益財団法人 福武財団

助成金を探すなら
助成財団センター

助成財団センターが運営している「助成団体ポータルサイト“助成・奨学情報navi”」では民間の助成団体が検索できます



子どもの目線を大切にしている富山県美術館

黄色の地にブルーの文字で「先生のための美術館ガイド」。思わず手にしたパンフレットには、学校教育と連携した美術館の多彩な取り組みがうかがえました。ワクワクする体験を求めて富山県美術館に行きました。

富山県美術館は、2017年に前身である富山県立近代美術館から名称変更し、富山県富岩運河環水公園の西に移転して開館。人々とアートやデザインをつなぐ場となることを目指して事業を行っています。

屋上にはオノマトペ（擬音語や擬態語）から考えられた遊具であそべる屋上庭園がありました。「つるつる」「ふわふわ」「ぼこぼこ」「ひそひそ」などのカラフルな色の遊具で遊びながら「デザインを体感することができます。3階には、いつでも、誰でも気軽にワークショップに参加できるオーブンラボやキッズルーム、美術館が所蔵しているポスターをタッチパネルでみることができます。」ができます。2階では、実際に作品として収蔵している椅子に座ってみると、展示室では、絵画や彫刻のコレクションの展示室がありました。

教育普及事業は、「見る、創る、学ぶ」といった双方向で美術を体験する美術館を基本方針のひとつとし、また「アートと人をつなぐ、アートが人をつなぐ」ことを目指しています。

学校向けの鑑賞プログラム「Find TAD！」は、富山県美術館(TAD)を探検して、自分なりの楽しみを見つけようというねらい。鑑賞プランは教員と相談しながら立てます。オリエンテーション、対話型鑑賞、ワークシートを用いた自由鑑賞に加え、オノマトペから考えられた遊具であそべる体験(屋上)

やアトリエでの創作活動などもプログラムに入れることができます。

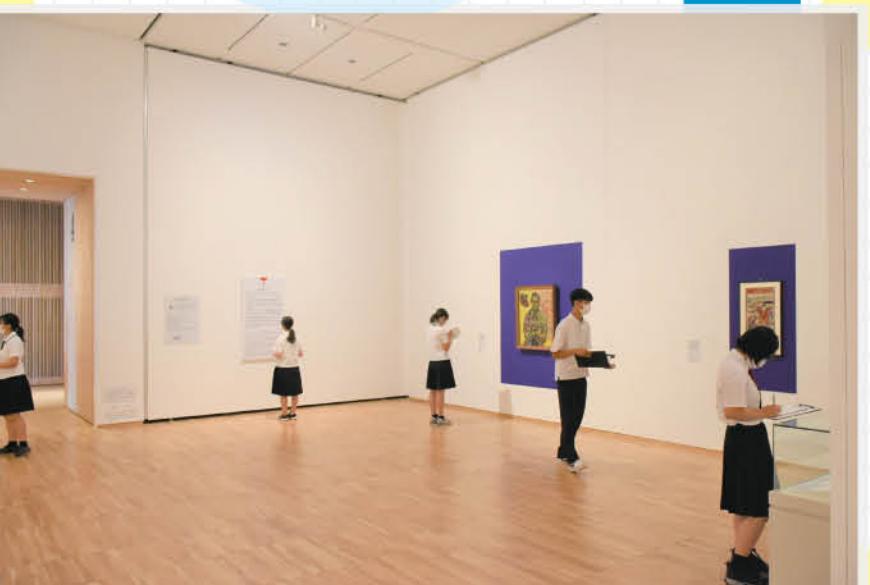
「ロナ禪では、更に充実した教育活動によるよう美術館にきてくれる先生方の負荷を減らそうとそれ以前から発行していた「先生のための美術館ガイド」の内容を充実させたり、事前学習のための動画作成などに取り組んだりしたそうです。また、以前から作成している「中学生のためのミュージアムガイド」の冊子や鑑賞のための「ファインドタッププロジェクト」ワークシートは、学校で利用できるよう、学級配布と館内配布を行ったそうです。この冊子は、子どもたちがスケッチブックで、自分の感想や意見を記入する欄があり、その上にアート作品の説明文が記載されています。この冊子は、子どもたちがアート作品をより深く理解するための学習ツールとして役立つことでしょう。

「TAD！」という言葉は、富山県美術館の愛称で、TADは「富山県立近代美術館」の頭文字を取ったものです。TADは、富山県立近代美術館の略称で、富山県立近代美術館の略称です。

この事業は「岡山県の小学生全員が卒業するまでに一度は美術館を訪れ、本物のアートに出会い、わくわくする体験をしてもらいたい」という思いからスタートしました。この体験をハローー・ミュージアム事業に活かし、小学生にアプローチしたいと思います。(職員・和田)



富山県美術館



富山県美術館

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」（以下、「森の芸術祭」）が9月28日（土）から11月24日（日）まで、岡山県北部で開催されます。一足早く8月23日に、作品制作のサポートスタッフとして参加してきましたので、簡単なレポートと共に「森の芸術祭」の概要をお知らせいたします。

（事務局長・塩見）

レアンドロ・エルリッヒ氏の作品 「The Nature Above」の制作に 参加してきました！



開催前の作品制作や会期中の運営に携わるサポートスタッフ（ボランティア）の募集があり、奈義で展示されるレアンドロ・エルリッヒ氏の作品「The Nature Above」の制作サポート

に、8月23日に参加してきました。

8月22日～25日の4日間でのべ80名近い方が参加されたそうです。（会期中の運営スタッフボランティアは10月31日まで森の芸術祭公式Webサイトで募集中）

当日は、約20名の方（地元中学・高校生をはじめ、岡山県内各地、山陰・九州から社会人。

大学生も）が参加。35度を超える酷暑の中、吹き出す汗と格闘しながら、作品制作に関わりました。冒頭、スタッフの方からレアンドロ氏のこれまでの主なアート作品（金沢21世紀美術館の「スイミング・ブル」他）の紹介、今回の作品の概要と狙い等を伺い、作品理解を深めました。レアンドロ氏の作品の特徴は、視覚的な錯覚

や知覚の操作を利用して、鑑賞者に新しい視点や驚きを提供してくれます。

今回の作品は、奈義町現代美術館（秀峰那岐山を背景に建てられた、これまたステキな美術館）脇にある屋内ゲートボール場「すばーく奈

義」内に設置されます。予定で、24m×20mの区画に展示されます。町産ヒノキ

やスギなどの自然木340本を周囲に並べ、中央には天井からフェイクツリー300本を吊るし、地上に鏡を敷いて吊り橋を通して、鑑賞者は、天からのフェイクツリー、足元には鏡に映し出されたツリーを、吊り橋を渡りながら鑑賞、神秘的な体験ができる作品になるのだそうです（原稿執筆時点ではまだ制作中で、完成した作品がイメージできませんでした）。

この日の制作サポートは、幾つかのグループに分かれ、約180cmの大型ツリーキット300本の入った段ボール開梱、組み立て、逆さに吊るしても3段組みの



幹が落ちないようにツリー幹のビス留め、ツリーの枝を開いて形を整えるという工程を、11時頃から17時まで黙々と作業しました。途中熱中症対策の休憩時間には参加者同士で参加動機やアートに対しての関心についてのおしゃべりも弾み、交流を深めました。皆さん、作品制作に関わるという貴重な体験ができるということで、わくわくドキドキの時間を過ごしました。クリスマスの折には、自宅で同様のツリー1本を仕上げるのにも悪戦苦闘したことがあります。300本は圧巻でした。ひたすらツリーと格闘、250本あまりの組み立てを終え、残る2日間のサポートに後を託し、心地よい疲労感と充実感と共に家路につきました。（あの300本のツリーがどのような作品として完成するのか、めちゃくちゃ楽しみ!!）

来年は瀬戸内国際芸術祭2025も開催されるので「瀬戸芸でも作品制作のボランティアに絶対参加するぞ！」と作品制作サポートにはまつた筆者でした。

森の芸術祭 晴れの国・岡山について

森の芸術祭の名称は、温暖な気候、豊かな水や資源、食など、私たちが生きる上での大切な要素を満たしているこの地域の自然の恵みや文化、人々が集まる場所としての多様性と豊かさを象徴する「森」からきています。

この芸術祭のアートディレクターは、金沢21世紀美術館館長、東京藝術大学名誉教授を務めながらキュレーターとしても活躍され、各国で企画展・国際展などを企画している長谷川祐子氏です。

アート作品展示箇所5市町では、42組43人の国内外からの幅広いジャンルのアーティストを迎へ、展示場所に合わせた国際芸術祭が展開されています。特筆すべきは、岡山の方ならよくご存じの鍾乳洞、「井倉洞」、「満奇洞」にもアート作品が展示されています。岡山駅と津山駅からオフィシャルツアーバスが運行(日帰り、専属ガイド付き)され、ヒストリーコース(津山・奈義エリア)、ネイチャーコース(新見・真庭・鏡野エリア)が設けられ、効率的に鑑賞でき、

県北が不案内な方も安心して参加できます。*運行日が決まっていますので公式Webサイトをご確認ください。更に公式Webサイトには、自動車利用、公共交通機関利用のそれぞれのモデルコースもいくつか紹介されており、森の芸術祭に参加される方は必見です。

また、会期中に開催エリアの各市町村で行われるイベント等で、芸術祭と相乗効果が見込まれる市町村一押しの文化芸術、地域・観光振興事業が「PICK UP PROGRAM」として認定されたり、この芸術祭と連携して実施する「FRIENDS PROGRAM」が展開されたりと、開催エリア全体の盛り上げも図られています。

鑑賞パスポート、オフィシャルツアーバス、アート作品、イベント情報などを盛り上げる情報が公式Webサイト(<https://forestartfest-okayama.jp/>)に掲載、順次更新されていきますので、ぜひご覧になつたうえでご参加されてはいかがでしょうか。

2024.9.28 Sat
– 11.24 Sun

森の芸術祭 岡山
FOREST FESTIVAL OF THE ARTS OKAYAMA

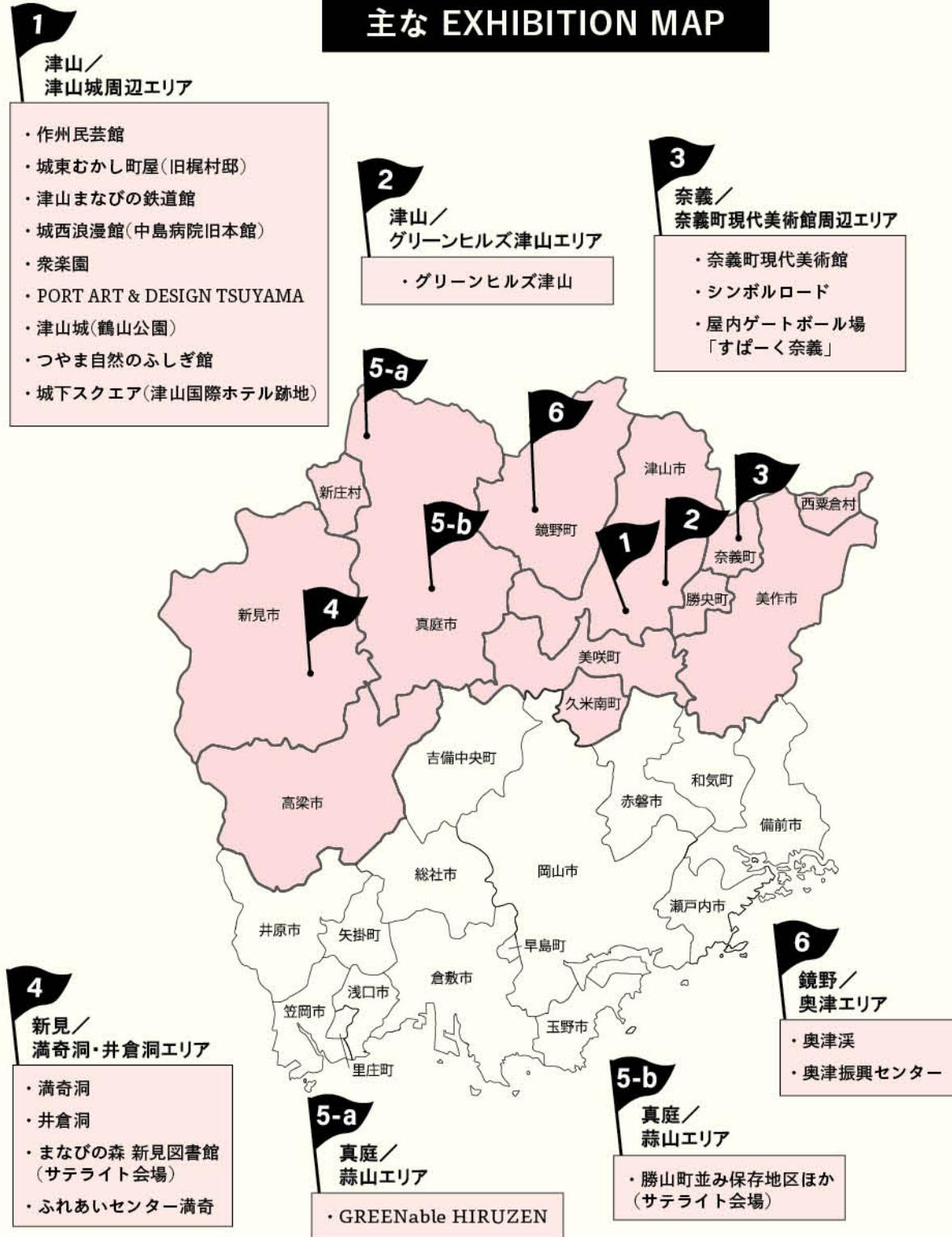
岡山県北部を舞台とした国際芸術祭

森の芸術祭 晴れの国・岡山

現代アーティストや写真家、音楽家、ダンサー、建築家、華道家、デザイナー、染色家、工芸家、映像作家といった多彩なジャンルのアーティストが集結。中国山地の雄大な自然、歴史ある街並み、豊かな食など、魅力あふれる地域が、芸術のエネルギーを得て、心や感性をリフレッシュさせる場に変容し、「驚き」「感動」「わくわく感」をお届けします。



公式WEBサイト



僕が、活動をはじめた理由

2018年は第一回頭島あかりまつりの年であり、私が相方とともに頭島に移住し、島の東端でキャンプ場を始めた年でもあります。

しかし島の人の対応は私たちの思惑とは真逆。快く(面白がって)交流していくだけで、「キャンプ場だけで食つていけるのか?」「頭島牡蠣の仕事はどうだ」「地域にはこんな集まりがあるぞ」となにかと気にしていました。そんな中で頭島二ティで行われる集まりには時間が許す限り出向きました。

私は何かお役に立てないかと首を突っ込みちょっとまかと紛れ込んだのが始まりです。学校の文化祭から海外フェスまで、様々なイベントに参加参画し、腕に覚えがあります!!

頭島あかりまつりは不思議とわらず地域と地域外の垣根がないお祭りです。地元漁師や飲食店や企業、他府県から集まる学生ボランティアに地元の高校生や大学生が自然と融合し島の夏を彩り、島の風習を現代に蘇らせつつ、新しい事にもチャレンジする。

これは島の持つよーまーの精神からくるものだと私は考えます。よーまーは地域言葉で「お節介」の意、口では「また今年もやるんかよ」と言いつつ、いつのまにか渦に巻き込まれ体を動かしてくれる。祭り自体のコンテンツも魅力的で、私たちを受け入れてくれた島への感謝もありますが、そんな心地よいお節介が織りなす祭りの雰囲気が私は大好きです!!

「地域の裏方として立ち回る黒子でありたい」

文・片倉弘貴

頭島あかりまつり実行委員会代表

頭島あかりまつり 実行委員会

行灯が立ち並ぶかつての頭島神社の祭りをアップデートし、地域行事として島民が楽しめるのはもちろん、多世代の来場者の方に頭島を体感してもらう。特に次世代を担う子どもたちにとっての原体験となるような祭りにする。また将来的な関係人口や定住増加に繋げ、牡蠣産業の継承と発展にも貢献していく。



小学校で行灯づくりワークショップ



頭島あかりまつり



私が、活動をはじめた理由

「子どもたちがワクワクするグローバルな学びを」

文・井本亜希 GifTree 代表



「バラライカ・三味線・チェロを聴き比べよう」体験



アースボールで世界をのぞいてみようWS

海外への憧れを抱いた中学時代。グローバルを感じる活動がしたいと思い始めて20年以上が経ちました。ローカルに目を向けるようになったのは、ある国際交流プログラムに参加した大学生の頃です。多国籍の青年たちと共同生活を送りながら、互いの言語や習慣を尊重し、国籍や人種等を越えて、人と人としての世界とのつながりを感じる。交流プログラムで出会った友人の「We are ONE.(わたしたちはひとつ)」の言葉が今でも忘れられません。

文化交流や課題解決に向けたディスクッションをする中で、「平和な社会の実現のために、様々な属性を越えて、多種多様な人が交わりあう機会や場をつくりたい」。そう思い、や場をつくりたい。10年前に岡山に戻り、活動を始めました。

地方にいても、世界とつながりながら活動がしたい。とう思いいで、地域に暮らす海外にルーツをもつ方々に協力してもらなながら、様々な言語や文化、習慣、生き方に触れる機会を、主に子どもたちに届けています。現在は、昨年4月に仲間と立ち上げたGifTreeのメンバーとして「グローバル」「サイエンス&テクノロジー」「食」等をテーマに、Asian Hope Lab(アジアンホープラボ)を交流拠点として活動をしています。

様々な生き方や考え方、文化や習慣、言語に出会うことは、人生の幅を広げし、心を豊かにします。私たちGifTreeのミッションは、子どもたちがワクワクするグローバルな学び。世界を意識し、世界を知り、自分の暮らす地域で世界とつながる。人と人をつなぎ、「ちがうね!」「一緒だね!」と、多様性と共通性を感じながらローカルでグローバルな活動を今後も展開していきたいです。

歌人

大森 静佳

Oomori Shizuka

1989年、岡山県生まれ。

岡山朝日高校在学中に短歌を作りはじめ、大学在学中の2010年に第56回角川短歌賞を受賞。歌集に『てのひらを燃やす』(角川書店)、『カミーユ』(書肆侃侃房)、『ヘクタール』(文藝春秋)がある。現在は京都市在住。「塔」短歌会所属。岡山では短歌ワークショップ「31文字の私に出会う」(NPO法人アートファーム主催)を開講中。2023年度福武教育文化賞受賞。

高校時代に短歌と出会い、「毎日歌壇」への投稿を始めた大森静佳さん。大学在学中に「角川短歌賞」を受賞する快挙を成し遂げます。岡山県内では「高校生文芸道場おかやま」の短歌部門の講師を担当したり、今年は「岡山芸術文化賞グランプリ」を受賞。今後の活躍が大いに期待される大森さんに、短歌とは何かについてお伺いしました。



大森 静佳さん

文字の海から生まれた歌は、言葉の変質可能性を照らす。

角川短歌賞受賞時、技巧派として注目された大森さんは、現在その技巧からあえて距離をとります。歌から技巧が見え過ぎないよう、かつ、自分が見ている世界を美しいものとは書かず、世界の怖さを表現します。きっかけは東日本大震災。様々な業界でパラダイムシフトが起ころうが、短歌界でも、これまでのようないいのかという機運が生まれます。大森さんもまた、国内外の災害や紛争から目を背けることができないようになっていました。

大森さんの2冊目の歌集『カミーユ』の最初の一曲は、「狂うのはいつも水際」。蜻蛉來てオフィーリア来て秋ははなやぐ。華やぐという言葉で締めくくりつつ、どこか怖ろしく、不気味さも感じます。短歌のスタイルには、作者の人生を写実的に表す人生派と、作者の感情や世界の見え方を言葉によって再構築していく言葉派があるそうです。大森さんのスタイルは言葉派で、この言葉はこういう捉え方や意味もある」と、言葉の意味の拡張・多義性に挑戦します。

大森さんの仕事は、作品制作と評論の執筆。外を散歩しているときに歌を思いつくことが多いそう。脳内で勝手にいくイメージで推敲していくきます。短歌は日常でかけているブレーキを外し、普段は言えないプライベートな整理される文字列を崩すイメージで推敲していきます。



取材・文 森分 志学

短歌 つて 一体 なん で しょ う か。

角川短歌賞受賞時、技巧派として注

目された大森さんは、現在その技巧から

あえて距離をとります。歌から技巧が見

え過ぎないよう、かつ、自分が見ている

世界を美しいものとは書かず、世界の怖

さを表現します。きっかけは東日本大震

災。様々な業界でパラダイムシフトが起

ころうが、短歌界でも、これまでのよう

に美しい言葉で美しい世界を詠むだけで

いいのかという機運が生まれます。大森さんもまた、国内外の

災害や紛争から目を背けることができないようになっていました。

大森さんの2冊目の歌集『カミーユ』の最初の一曲は、「狂う

のはいつも水際」。蜻蛉來てオフィーリア来て秋ははなやぐ。華

やぐという言葉で締めくくりつつ、どこか怖ろしく、不気味さ

も感じます。短歌のスタイルには、作者の人生を写実的に表す

人生派と、作者の感情や世界の見え方を言葉によって再構築し

ていく言葉派があるそうです。大森さんのスタイルは言葉派で、

この言葉はこういう捉え方や意味もある」と、言葉の意味の拡

張・多義性に挑戦します。

大森さんの仕事は、作品制作と評論の執筆。外を散歩し

ているときに歌を思いつくことが多いそう。脳内で勝手に

いくイメージで推敲します。

短歌は日常でかけているブレーキを外し、普段は言えない

整理される文字列を崩すイメージで推敲していきます。

短歌における言葉の扱い方は生来の感性ではなく、鍛えられた

感覚によって熟練します。過去の作品や短歌論を読むことで、既

に使われている言葉の意味・捉え方をインプットしたり、短歌

以外の様々な世界に触れたり。大森さんは、膨大な情報を処理す

ることで、世界の切り取り方を磨きます。今後は、前作とは違う

づけます。

短歌における言葉の扱い方は生来の感性ではなく、鍛えられた

感覚によって熟練します。過去の作品や短歌論を読むことで、既

に使われている言葉の意味・捉え方をインプットしたり、短歌

以外の様々な世界に触れたり。大森さんは、膨大な情報を処理す

ることで、世界の切り取り方を磨きます。今後は、前作とは違う

づけます。

大森さんの仕事は、作品制作と評論の執筆。外を散歩し

ているときに歌を思いつくことが多いそう。脳内で勝手に

いくイメージで推敲します。

短歌は、無限にある言葉と

文字の制約とのせめき合いの

なかで、自分のモヤモヤや考

えを一段階深めて表現できま

す。そこに、あるひとつの中

の言葉の、日常で使われる定義か

ら少し拡張した意味を、世界

にもたらす可能性が照らされ

ています。

NPO法人だっぴ 代表理事

森分 志学 Moriwake Shigaku

1990年、岡山県倉敷市生まれ。大学院生時代に、高校生と大人の対話プログラムを高校と連携してつくる。

卒業後は、教育系の広告代理店に勤務して、高大接続の領域に関わる。2017年に岡山にリターンしてNPO法人だっぴに入職し、2020年より現職。県内20市町村50校以上の学校や自治体の学校教育・社会教育に携わる。

「生きものさし」でつなぐ 過去と現在、そして未来

文 山田 哲弘

岡山スケッチ vol.2

岡山の街中で育った私にとって、幼い頃から岡山城周辺や西川緑道公園で過ごした時間は、とても大切な宝物です。夏の楽しみといえば、元気に鳴いているセミを捕まえること。様々な場所を自転車で巡りながら、虫取り網を片手にセミを追いかけるのが私の日課でした。45年前、小学生だった頃、アブラゼミ、ニイニイゼミ、ツクツクボウシがよく捕獲できるセミで、クマゼミを捕獲した時は、その珍しさから友達から羨望の眼差しを浴びた記憶があります。

2008年から環境学習センター「アスエコ」では、西川緑道公園で「セミと緑の調査隊」という自然観察イベントを始めました。子どもたちと一緒にセミの抜け殻を集め、その種類と数を記録し残しています。昨年度までの結果をまとめると、アブラゼミが321個、ニイニイゼミとツクツクボウシがそれぞれ7個に対し、クマゼミの抜け殻は7933個でした。変化の理由は、セミに直接聞いてみなければ分かりませんが、地球温暖化やヒートアイランド現象が影響していると言われており、45年間で私たちの環境が大きく変化していることをものがたっています。

このような変化を理解するために、「生きものさし」という考え方があが役立ちます。「生きもの」と「ものさし」を合わせた造語で、生きものの変化を通じて、環境の変化を捉える指標のようなものです。幼い頃に公園でセミを追いかけて経験と、アスエコでの継続的なイベント開催で、私の「生きものさし」は時間を経て大きく成長しました。このように過去と現在を比較することで「生きものさし」が育ち、未来に向けて環境問題の解決策を探ることにつながると考えています。

山田 哲弘 (やまだ てつひろ)
岡山の自然を愛する53歳。1994年、公益財団法人岡山県環境保全事業団に入団後、県内の野生動植物調査や県版野生生物目録・レッドデータブック作成に携わる。2023年5月、イオンモール岡山6階にオープンした環境学習プラザ「アスエコ」所長に就任。展示やイベント、講演活動を通して、環境問題や地球の大切さを伝えている。

私の「生きものさし」の一つである、身近な自然で起こったセミの数の変化は、地球からの重要なメッセージ。この重要なメッセージに気づいたら、あとは行動するだけです。小さな一步として、身近な自然に目を向けること。例えば、子どもたちと一緒に近くの公園や川へ行き、色とりどりの花や昆虫、魚たちを観察する。子どもにとってはそれが基準となり、大人に生きものさしを取り組めば、地球全体に大きな変化をもたらします。

私は、皆と一緒に力を合わせて、地球とそこで暮らす全ての生き物が調和した、そんな持続可能な未来を目指したい。あなたの「生きものさし」を通じて、環境に対する新たな理解と行動が広がることを心から願っています。

小さな一步の次は、具体的な今すぐにできることが大切。日々の生活で環境に配慮された製品を選ぶ、水や電気を効率よく大切に使う、ゴミの分別をしっかりと行うといった具体的な行動は、一人ひとりが取り組めば、地球全体に大きな変化をもたらします。私は、皆と一緒に力を合わせて、地球とそこで暮らす全ての生き物が調和した、そんな持続可能な未来を目指したい。あなたの「生きものさし」を通じて、環境に対する新たな理解と行動が広がることを心から願っています。



森分 志学

復活の途上にある久米土人形 文 玩具工芸社

2023年3月から津山市(旧久米町)の郷土玩具、久米土人形の復元活動をしている。作者が亡くなり二十数年製作が途絶えていたが、2023年2月4日に岸川家を訪ねた際に、人形作りの手伝いをされていた娘の産賀久子さん(79)にお会いし、その翌月から保管されていた型を使っての復元活動が始まった。表紙のイラストは、長友が製作した達磨と福助の実物を元に描いてもらった。

久米土人形は文化二年(1805年)の頃、初代、松岡村右衛門が京都の伏見人形の流れを汲んで造り始めたとされている。作者は、一代目 松岡村右衛門、二代目 松岡健二郎、三代目 今川佐十郎、四代目 岸川春次郎、五代目 岸川武士、六代目 岸川留代。以前は何軒か作り手がいたが、戦後五代目武士さんのみが製作を再開させた。

作州地域では昔から男児が産まれてから初めての桃の節句にお祝いで天神様を贈られ、毎年の節句に祀られていた。当時、岸川家ではその天神様を主に製作しており、ひな祭りの時期は床の間に天神様を並べ販売をしていたそう。五代目武士さんが1983年あたりまで製作をされており、亡くなられた後、妻の留代さんが六代目として継承された。留代さんが2000年に亡くなられてからは製作が途絶えてしまった。当時手伝いをされていた産賀久子さんは、当初は継承の予定だったがタイミングが合わず思うように製作ができなかった。

現在(2024年8月)で2年目の活動となる。復元のきっかけは2022年12月に輪原からの「久米土人形の型が残っているらしい。復元の相談をしに行かない?」という

説いからだった。連絡先は知っていたが、電話がなかなか繋がらず、後日初めて岸川家を訪ねた。岸川家の玄関には製作が途絶えて二十数年経った今でも多くの久米土人形が飾られ、こちらを向いていた。その後産賀久子さんとお会いし、人形の型や倉庫を見せていただき、当時使用されていた土や道具を確認した。「それでは翌月、実際に作ってみましょう」と約束をし、復元活動が始まった。

岸川家は米農家で、農閑期に人形づくりをしていた。田んぼで粘土質の土を掘り、石や草を取り除く。現在は備前焼の土を使用している。薄く伸ばした粘土を前後二枚の雌型に指で押し詰め、15分ほど乾かす。土が縮んで取り出しができるので、前後の土を乾く前に繋ぎ合わせる。日陰で4~5日乾かし、焼かずにそのまま下地塗り、絵付けをし久米土人形が出来上がる。

久子さんや岸川家の方々の記憶、当時の写真や書籍に載っている情報を元に復元を行っている。実際に製作をしてみると様々なことがわかり、五・六代目の人柄も親族の方との会話でわかってくる。これからも周囲の方のお話も伺いながら、土を触って追体験しながら、玩具製作を頑張りたい。復元製作した久米土人形を2024年10月5日の岡山神社蚤の市にて販売予定。お近くの方はぜひ、実物を見ていただけると嬉しい。

玩具工芸社



「玩具」と「工芸」の間を発掘・探求・創

作するユニット。メンバーや久米土人形の復元や、なども工作舎で玩具製作を行う長友真昭。

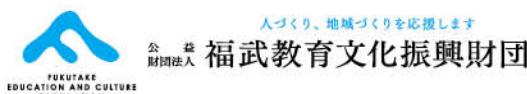
参考文献『岡山のおもちゃ』(日本文教出版「岡山文庫」1975)

編集後記

- ◆8月31日から9月3日までの4日間、2023年度に助成を受けた団体によるオンライン成果報告会を実施しました。4日間のべ約150組200名近い方が参加し、「活動の視野が広がった」「多くの成果報告が聞けて参考になる」「参加しやすい」等の高評価をいただきました。コロナ禍で対面式の成果報告会が実施できないため苦肉の策で始めたのですが、こうした声もあり引き続き実施しています。
- ◆「森の芸術祭 晴れの国・岡山」が、9月28日から開催します。今回が初開催ですが、多くの方が訪れ、県北の豊かな自然・文化と共にアートを楽しみ、盛り上がることを期待しています。(S)

機関誌「ふえき」
読者アンケート
ご協力ください。

▼アクセスは
こちらから



〒700-0806 岡山県岡山市北区広瀬町1番5号 株式会社ベネッセコーポレーション広瀬町社屋
TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190 URL <https://www.fukutake.or.jp/>
E-MAIL eczaidan@fukutake.or.jp



福武教育文化振興財団
ウェブサイト



コミュニケーション・マガジン
and F | アンドエフ



教育文化活動助成
成果報告書アーカイブ

題名「不易」には、「時代を超えて優れたものに共通する本質的なもの」を大切にしたいという谷口澄夫初代理事長の思いが込められています。

機関誌 不易

vol.85 2024.9.25

編集・発行	公益財団法人 福武教育文化振興財団
制作	株式会社吉備人
デザイン	久延 フミカ(ヒラガナ企画合同会社)
表紙画	タケシマ レイコ
印刷	研精堂印刷株式会社